勤労婦人の産褥期の不安について

天 野 和 彦*

要約：勤労婦人が産褥期にもつ不安について，アンケート調査を性格調査と併用して行った。性格は，安定積極型が多く，又対照にとった無職婦人はお乳の出についての不安の頻度が高いのに反して，勤労婦人は退院後の育児についての不安が，その頻度が高かった。

見出し語：産褥期の不安，性格調査，育児の不安

研究方法：勤労婦人が産後いかなる不安を持つか，又性格との関連について302例の褥婦（有職107例，対照195例）を対象に産後3日目，出産した児，これからの育児，お乳の出方の3項目についてアンケート調査を行った。3項目不安あるを高不安群，2又は1項目は中不安群，不安なしは低不安群とした。同じ対象に産後5日目，矢田部ギルフォード性格テスト（YGテスト）を実施し，A・C・D型を情緒安定型，B・E型を情緒不安定型とした。

結果：年令構成では，勤労群は対照群に比べ出産年令層の幅が広い。YGテストによる性格分類では，勤労群にA・C・D型（情緒安定型）83.8％が対象群71.4％と比べ多い。その中D型（安定積極型）も，59.5％と対象群42.9％に比べ多い。次に不安の程度では，不安なしとした群が勤労群で12.1％と対照群20.0％と比べ少ない。不安の内容は，勤労群は，1位，これからの育児について。2位，生まれた児について。3位，お乳の出についてである。対象群は，1位お乳の出について，2位生まれた児について，3位育児についての順である。

考察：産褥期は，内分泌機構の急激な変化に加え，疲労，疼痛などの身体的ストレスや，育児

・東京都立荒川産院

という課題が加わり，さまざまな不安が生ずる時期と考えられる。勤労婦人は，仕事との両立というきびしい環境の下，出産・育児にたづさわってゆくことから，家庭婦人とは違った不安をもつことが推測される。この実態調査の為，関心度の高いと思われる，児の状態について，お乳の出について，退院後の育児について約３００例の褥婦（勤労婦人約１００例）につきアンケート調査を，一部は性格調査と併用実施した。性格分類では，勤労群は無職の対象群と比べ安定積極型が多いことを反映し，経産婦で高不安者が少ない。又，上記３項目の中，不安の頻度の高い項目が，対照群ではお乳の出についてであるのに反し，勤労群はこれからの育児について，特に仕事との両立について不安の頻度が高かったことは特長的である。職場厚生面での今後一層の改善を考えさせられることである。

文　献：

1.平野恵子他；褥婦の心理と適応性
母性衛生，２４（2）４８-５２，１９８3.
2.川井　尚　；心理学者からみたマタニティブルー。
周産期医学，１６（3）４９-７１，１９８６.

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:勤労婦人が産褥期にもつ不安について,アンケート調査を性格調査と併用して行った。性格は,安定積極型が多く,又対照にとった無職婦人はお乳の出についての不安の頻度が高いのに反して,勤労婦人は退院後の育児についての不安が,その頻度が高かった。